

中国語の因果表現：談話における選択要因について

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-03-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 今井, 敬子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00001110

中国語の因果表現

—談話における選択要因について—

今 井 敬 子

はじめに

中国語では、分句と分句、句子と句子¹⁾を結ぶ連詞は必ずしも常に必要なものではなく、特に話し言葉では使用されない傾向が大きいと一般に理解されている。ところが、実際の自然な発話の連続を調べてみると、特定の連詞が予想外に多用されていて、そうした少数の連詞のみが圧倒的に多く使われているという現象が見られる。本稿では、自然発生的なモノログ資料について調査をしたが、その範囲で見える限り、逆接関係を表す連詞の“虽然”と“但是”、因果関係を表す“因为”と“所以”の使用が、特に目立って多かった。こうしたことから本稿では、連詞の使用を談話の中で見直すという目的のために、今回は因果関係を表す連詞を対象として取り上げ、実際の自然な発話連続の中での使用実態を調べることにする。

本稿ではまず、二種類のモノログ資料——自然な発話の録音内容をそのまま文字転写したものと、文字化の過程で推敲、編集したもの——を調べ、両者における因果関係を表す連詞の使用状況の異同を調べる。次に、因果の提示順序の違いによって表現類型を整理し、それぞれのタイプが談話の中で選択使用される要因について考察する。

資料および考察対象の範囲

調査のための資料として、『当代北京口語語料』（北京語言学院語言教学研究 所、1993年。以下、『当代』と略称する）および『北京人——一百个普通人的自述』（张辛欣・桑晔、上海文艺出版社、1986年。以下、『北京人』と略称する）のふたつを用いる。いずれも、80年代半ばに、住居、職業、家庭、娯楽、経歴などの個人的、日常的な事項を話題にしてのインタビューを実施し、解答者の口述内容の録音を文字化したものである。解答者は『当代』が102名、『北京』

が100名でほぼ同人数であり、文字数は前者が40万字、後者もほぼ40万字で、ほぼ同等の分量である。どちらの資料のインタビューも、質問者の発話は収録されていないため、発話のみかけ上の形態は、解答者のモノログになっているが、実際には、聞き手を二人称で指示していたり、聞き手に向かって質問を発していたりすることからも明らかなように、話し手は常に聞き手の存在を考慮し、聞き手の理解度を確かめながら発話を進行させていることが見てとれる。

『当代』は、実際の自然な発話による音声言語をそのままのかたちで文字転写したもので、一方の『北京人』は、録音した音声言語を推敲、編集した結果、「口述ドキュメンタリー文学」というジャンルの作品に練り上げたものである。したがって、前者は自然に生じる発話の構造特性を備えているが、後者は、編集者の文体意識による推敲の結果、整えられ、書き言葉に近い特性を帯びているであろうし、一方で、いわば人為的な「口述らしさ」も備えているのではないかと推察できる。

ふたつの資料の中で使われている因果関係を表す連詞としては、“因为”と“所以”が最も使用頻度が高い。その表現形式には、“因为”と“所以”を呼応させたものといずれか一方を単用したものがある。また、因果関係の提示順序からすると、原因・理由が先行して結果・帰結が後に続く場合（以下、先因後果型と称する）と、その逆の、結果・帰結が先行し、原因・理由が後続する場合（以下、先果後因型と称する）がある。本稿では、形式および因果関係の提示順序の二点から、因果表現の両資料における使用実態を調べてみた。

使用状況——『当代』と『北京人』の間の差異

本稿の調査で多数見られた形式は以下のように分類できる。ただし、“因为”、“所以”ともに、分句の頭、句子の頭のいずれにも置かれうるため、前件と後件はカンマ（逗号）で区切られている場合とマル（句号）で区切られている場合がある。标点符号に関わる問題は後述するが、ここではひとまず、逗号で統一して示しておく。

- ① 因为・・、(所以)・・・・・。
- ② ・・・・・、因为・・・・・。
- ③ ・・・・・、因为・・・・・、(所以)・・・・・。
- ④ ・・・・・、所以・・・・・。

①は、“因为”と“所以”の呼応形式の他にも、“因为”と副詞“就”、“便”、“才”などとの呼応形式、および“因为”の単用の場合を含める。先因後果型である。

②は、“因为”の単独使用であって、先果後因型である。“因为”ではなく“原来”が使われているものもこれに含めた。²⁾

③は、“因为”は必ず現れるが、“所以”はないこともある。“就”、“便”、“才”などの副詞が使われることもある。この型の特徴は、原因句（以下、“因为”によって原因・理由を表す句を原因句、“所以”などによって結果・帰結を表す句を結果句、また、両者をあわせた全体を因果句と称する）、あるいは因果句全体が、その先行句と先果後因型の因果関係をもち、同時に、その後続句と先因後果型の因果関係をもつという、二重の因果関係が見られるところにある。①と②を兼ね備えたはたらきをしている。

④は、“所以”の単独使用形式である。原因・理由の標識が明示されていない場合の先因後果型であるのが基本であるが、実際にはそれだけでなく、はっきりした因果関係は見られずに、前件の内容を後件に引き継いでいるだけのよう理解できる例もはなはだ多い。実際の談話で単用される“所以”は、必ずしも因果関係を表しているだけではなく、より広い意味を担って使われている³⁾ものとうかがえるため、因果表現の考察を目的とする本稿では、“所以”の単用形式は考察の対象からはずすこととする。

“因为”についても、『当代』は実際の発話のままを文字転写しているので、論理的に整合していない例が少なくない。たとえば、形式は整っていても意味的には因果関係が不明なもの、“因为”を不適切に使ったあとで他の語で言い直している場合などは対象外とし、また、“因为”の単純な反復は加算せず、明らかかな因果関係を表していると読み取れる例だけを対象に、上で述べた①から③までの各形式の出現件数を示すと、次のようになる。①から③の形式番号のあとに、因果の提示順序による型の名を示した。括弧内は内数である。なお、①の括弧内の「呼応形式」とは、“因为”と“所以”の呼応を指し、「“因为”の単用」には後件に副詞が現われる場合も含んでいる：

	『当代』	『北京人』
①先因後果	278	52
	(呼応形式 74 “因为”の単用 204)	(呼応形式 3 “因为”の単用 49)
②先果後因	261	46

『当代』は40万字であり、『北京人』もほぼ40万字であることは冒頭に述べたが、上に示した因果形式全体の出現件数の差から、実際の自然な発話である『当代』におけるほうが、編集され整えられた『北京人』の場合よりも使用頻度ははるかに高いことがわかる。一般に、中国語は連詞の使用がすくないと言われるが、実際の自然な発話連続の場合は必ずしもそうではないようである。なぜ、自然な発話のほうが連詞はるかに多く見られるのであろうか。時間を追って線状的に形成されていく音声言語の連続体は、前後の意味関係を即時にわからせる標識がなければ、聞き手は理解しにくいであろう。文脈や言語外要素の助けによって理解がはかれる一方で、言語化された標識が使われていることも見逃してはいけない。一方の『北京人』は、実際の発話を「読み物」に練り上げるべく推敲・編集されたものである。文章の上を行きつ戻りつしながら読み進むことのできる『北京人』は、線状性、即時性の拘束はるかにゆるい。こうした理由から、『当代』のほうが因果関係を表す連詞が多用されている、ということではないだろうか。

個々の型について比べると、①の形式の中では、“因为”と“所以”の呼応形式が頻度がきわめて低く単用形式の頻度が高いという一般に認められている現象⁴⁾が、両資料で共通してみられる。

因果関係の提示順序では、①の先因後果型と②の先果後因型の数を比べてみると、『当代』でも『北京人』でも、①と②の間に大差はない。すなわち、一般に、先因後果が自然な順序であると言われるにもかかわらず、使用件数が抜きんで多いわけではなく、後から原因・理由を補足して説明するとと言われる先果後因型も大差なく使われているわけである。

『当代』と『北京人』で使用比率が大きく違うのが、③の二重因果型である。この型は、『当代』には少なからず出現するが、『北京人』にはごくわずかであることから、自然な談話に現れやすい型ではないかと推測することができる。

因果関係の及ぶ範囲

先に述べたように、①、②の型と③の型との違いは、因果関係が因果句内部でとどまっている(①、②)ことと、因果句を超えて前後の句に及んだ結果、二重の因果関係を形成している(③)ことの違いにある。ここでは、両タイプを

具体例に即して比較してみる。

次の例1)の中、「何度も行っているので印象に残っている」という内容を表している因果句は①型であるが、先行句と後続句の間にはさまれて、注釈にあたる意味内容を表し、挿入句となっている。因果関係の及ぶ範囲は挿入句の範囲内にとどまっている。

1) 这我觉得这个地方儿呢, 我因为去得多, 我就对它有个印象, 距武汉这个地方儿是二百三十二公里, 坐公共汽车呢, …『当代』5頁

ここの地域は、何度も行っているので、印象に残っているんですが、武漢からこの地域までは232キロで、バスに乗っていくと・・・

例2)も①型である。“因为”に呼応する標識はないが、「高校にはいってからは・・・」以降が結果句である。

2) 学生呢, 课外活动倒是比较丰富的。嗯, 因为我的爱好比较多。嗯, 上了高中, 上了高中以后呢, 我是参加了计算机组, 还有无线电小组。嗯, 另外呢, 在课, 在学校以外呢, …『当代』23頁

生徒はですね、課外活動はわりと豊富です。ん、私は趣味が多いですから。ん、高校に入って、高校に入ってから、コンピュータ・クラブに入りました、それにラジオ・クラブにも、ん、その他に、授業、学校以外には、・・・

2)では、「生徒は課外活動が豊富」であることを表している先行句と、因果句とは直接的な因果関係をもたない。これは、両者を結ぶと「生徒は課外活動が・・・豊富だ。私は趣味が多いから。」が意味をなさないことから明らかである。すなわち、ここでの因果関係は因果句内部だけに見られる。

例3)は②型である。

3) 不过, 我已有大半年停笔不写了, 熟悉我的人开始都觉得惊讶, 因为我是在良好状态下停下来来的。我觉得文学照现在这样是夕阳工业, 没劲。『北京人』152頁

でも、私はもうゆうに半年も筆を絶って書いていません、私をよく知っている人は最初はすっかり驚いていました、というのは順調だったのに書くのをやめたのですから。文学は今や斜陽産業だと私は思うし、やりがいがいいですよ。

ここでの因果句は先果後因型であるが、因果関係は因果句内部で完結し、後続する「文学は斜陽産業・・・」と因果句との間に因果関係を形成しているわけではない。

上のような例に対して、③型の4)では因果句内部だけでなく、その先行句との間にも、因果関係に相当する関係が見られる。

4) 爸爸呢, 从各方面呢, 反正也是挺, 挺照顾我的哈。因为打小儿就娇生惯养, 所以什么活儿也不会干。就是从母亲去世以后, 嗯, 才慢慢儿锻炼吧。锻炼。从各方面, 家务各方面呢, …『当代』17頁

お父さんは、いろんな面で、とっても、とってもよく私の面倒を見てくれます。小さいときから甘やかされて育ったので、なにもできないものですから。母が亡くなってから、ん、やっとなんか少しづつ訓練をしたんですよ。訓練を。いろんな面から、家事のいろんな面、…

4) の因果句では、その先行句「父はとってもよく私の面倒を見てくれる」のはなぜなのか、とそのわけを説明している。すなわち、先行句の内容の理由説明を因果句でなしているのである。したがって、この例の因果句は、因果句内部で表している因果関係の他に、因果句全体の先行句に対しても、ある種の因果関係をもっている、と理解できる。このように、因果句全体が先行句と因果関係に相当する意味関係をもつ場合、日本語では、文末を言い切りのかたちにならずに、たとえば訳文のように「何もできないものですから」の理由を表す「から」、あるいは、「なにもできないんです」のように説明の「ん(の)です」が、文末に必要になり、それによって、別の句との関わりが生じていることが暗示される。しかし、中国語の場合は、そのような何らかの形態上の差異が現われることはない。

本調査の収集データでは、因果関係の範囲が因果句の内部にとどまるもの(①、②の型)が多数を占めた。これは、本来、因果句とは意味的完結性の高い、自足した構造であるということを示しているのではないかと考えられる。①、②の型に対して、因果句がその先行句あるいは後続句との間にも因果関係を生んでいるもの(③の型)は、そのほとんどが『当代』で見られ、『北京人』には少数しかなかった。これは、このタイプには前後文脈に依存するという談話的要因が働いていることをうかがわせる。『北京人』で少数しか使用されていないことは、必ずしも、文字化以前のもともとの音声言語による発話でも少ししか使われていないことを示してはいないであろう。むしろ、編集者の文体意識によって推蔽された結果、書き言葉に近い特性が現われたということであろう。

このような二重因果型の因果句には、先因後果型がもとになってできていると理解できるものと、先果後因型がもとになっていると思われるものがある。次に、二重因果型の形式と意味について見ていく。

二重因果句

先因後果型と先果後因型を形態的に弁別できるとしたら、手がかりになるのは句読点の配し方であろう。句読点の配し方は、もとよりそれを付す者の任意に負うところが多いため、必ずしも客観的、普遍的なものではないが、ここでは、本稿の調査で収集した二重因果句の例を、句読点の配し方によって以下のように分類、図式化してみた。

- ア A。因为B，（所以）C。
- イ A，因为B，（所以）C。
- ウ A，因为B。（所以）C。
- エ A。因为B。（所以）C。

逗号で区切られた分句間の関係のほうが、句号で区切られた句子間の関係より緊密であるという理解に立つと、それぞれのタイプの構造は次のように理解できる：

アは、BとCが先因後果型を作り、その先行句としてAがある。

ウは、AとBが先果後因型をつくり、その後続句としてCがある。

イは、A、B、Cいずれも分句であるため、また、エはABCがいずれも独立句であることから、どちらのタイプも、先因後果か、先果後因かは、かたちの上では不明である。

前後句との因果関係が見られる場合は、AとCの内容が異なる場合（或いは、厳密には同一でない場合）と、同一である場合のふたつがある。まず、前者について、具体例を見ていく。

例5)はア型の例である。“因为”と“就”が呼応して因果句を形成している。5) 嗯，现在虽然自己开始过日子哈，有时候儿跟我母亲一块儿。因为我现在母亲身体不好，有时候儿我就到她那儿去。我等于现在有三个地方，婆婆家，我自己娘家，还有我自己还有一个家。『当代』283頁

ん、今はもう自分で生活を始めてますけど、時々母といっしょです。母がこのところ体の具合が思わしくないの、時々母のところへ行くんです。今は、家が三か所あるのと同じです、姑の家、実家、それに自分で家をもってます。

因果句BCの中の原因句Bの内容「母の体の具合がよくない」ことは、先行句Aの内容を受けて、「時どき母といっしょにいる」ことの理由を表している。つまり、原因句Bは、結果句Cと因果関係（先因後果）をもつと同時に、先行

句Aとも因果関係（先果後因）をもっている。結果を表すふたつの句—AとCは、たがいに関連のある内容ではあるが、まったく同一内容というわけではない。

例6) もア型である、“为什么呢？”で導かれて因果句が続いている。

6) 解放前呢，就是说，我并不，不太热爱我这工作。为什么呢？因为那会儿护士被人看不起的，所以，甚至于呢，我出去都不愿说我是护士。『当代』285頁

解放前は、つまり、決して、この仕事が好きじゃありませんでした。なぜかということ、そのころは、看護婦はばかにされてましたから、それで極端な場合には、外では自分が看護婦だなんて言いたくなかったほどです。

因果句の中の原因句の内容「当時は看護婦がばかにされていた」ことは、先行句の内容「看護婦の仕事は決して好きじゃなかった」ことの理由説明になっている。結果を表すふたつの句AとCの内容は一致していない。

例7) はイの型である。“因为···就···”が因果句の部分である。

7) 我有一个大儿子呢，这个叫朱建国，他原来从这个初中毕业以后呢，就安排到这个青海去工作了，因为青海那儿建设一个拖拉机制造厂，这样儿他就到那厂子去了。『当代』67頁

息子がひとりいまして、朱建国といいますが、その、中学を出てから、すぐに青海へ配属されていきました、青海にトラクター工場を建設したので、それでその工場へ行ったんです。

ここでは、因果句全体の内容が、先行句の内容「青海へ配属されて行った」ことの理由説明になっている。

例8) はエの型である。

8) 我们内部很严格的。因为我们都想长久做下去。纪律很严，如果谁迟到，要扣钱的，临时误场不来，像今天那位歌手，要罚她好几天的工资。我们唱一晚一人能挣差不多十元、···『北京人』146頁

私たちの内部は厳しいです。みんな長く続けていきたいと思ってますから。規律が厳しいんです、遅刻したらお金を取られるし、出番に遅れたら、今日のあの歌手のように、何日分もの給料をとられます。一晚歌ってひとり十元程度ですから、···

8) は、A、B、Cがいずれも独立句であるため、AとBの先果後因型のようでもあるし、BとCが先因後果を形成しているようにも見える。Cの最初の分句の内容「規律が厳しい」ことは、先行句Aの「私たち（歌劇団）の内部は厳しい」ことと、近似した内容ではあるが、厳密には同一ではない。ここでは、

後続句C全体が、先行句Aの内容を具体的に詳しく説明していると理解できる。

上の諸例のように、二重因果句であってAとCが厳密には同一内容ではない例は、本稿のデータではU型の例のみが見られなかった。ところが、AとCが同一あるいはきわめて近似した内容の場合は、U型は多数見られるのである。U型がはっきりした先果後因であることがその理由であると考えられる。以下に、そのような例を挙げる。

例9)はU型である。

9) 那个福利吧，我们每天有那个远郊补助，因为我们是迁厂单位。我们原来在西城区，是属于西城区，宣武区，西便门儿那点儿。啊，六，六，六六年迁门的吧？所以我们每天有那个远郊补助我们厂，三毛。『当代』62頁

福利ですが、毎日遠距離手当がついています、私たちは職場を移りましたので。もともとは西城区に、西城区、宣武区、西便門のところ属してました。あ、6、6、66年に移ったんでしょう。それで、毎日遠距離手当があるんです工場で、3毛です。

文中の先行句Aと結果句Cにおいて、「毎日遠距離手当が付く」という同一内容が、ほぼ同じ語句・表現を使って表されている。すなわち、結果句Cは先行句Aの内容を繰り返している。

次は、U型であるが、Cの句頭に呼応標識がない例である。

10) 通过这段时间工作呢，就是出差的机会也比较多，因为我这个家庭负担呢不怎么太重，这个孩子呢也都这个逐渐都长大了，都能自理了。自己出差的机会呢也就比较多。我出差这个地方哪，嗯，比较多的地方是哪儿呢？··『当代』5頁

この期間を通しての仕事は、出張の機会がわりに多いです、家の負担はさほど重くないですから、子どもがだんだん大きくなって、自活できるようになりましたので。自分で出張の機会がわりに多いんです。出張の場所は、ん、わりとよく出張するのはどこかというと··

10)では、先行句Aの内容「出張の機会がわりに多い」ことが、結果句Cにおいてほとんど同一の語句・表現によって再び繰り返し表されている。

U型の次に多く見られるのがE型である。11)はE型の例である。

11) 我现在住着三居室。嗯现在家里就两口人。平时两口儿人。嗯，有时候儿呢，就是因为外孙子在我这儿，现在都在托儿所，户口也就在这儿。所以平时呢，就

是我和我爱人。嗯，过节假日啊。・・・『当代』188頁

今は三部屋のうちに住んでいます。ん、今うちはふたり家族です、ふだんはふたりです。ん、時々外孫が私どものうちにいますので、今は託児所ですが、戸籍がここにあるんです。それでふだんは、私と夫のふたりだけなんです。ん、休日の過ごし方ですが、・・・

ここでは、「普段はふたりである」ことが、先行句Aと結果句Cの二箇所で見現を少し違えながらも繰り返されている。

12) もエ型である。

12) 骑车，不过我不敢骑的太快。因为现在这个马路上呢，有很多年轻人呢，骑车挺不注意的。嗯，有时候儿就从你旁边儿就抄过去了。所以我胆子也比较小，我骑车不敢骑太快。我不太常坐车，・・・『当代』32頁

自転車に乗るのは、でもスピードは出せません。このごろは道路に、若い人が多くて、とても不注意に走らせますから。ん、わきをすり抜けていくこともあります。それで、私は気が小さいし、自転車を速く走らせるなんてできないんです。あまりバスには乗りませんが、・・・

ここでは、「速いスピードで自転車に乗れない」ことが、先行句Aと結果句Cにおいて、きわめて近似した表現で繰り返されている。

ウ型とエ型に共通した特徴は、原因句Bが句号でしめくくられていることであって、これは、先果後因の性質傾向が強いということである。先行句Aと結果句Cの内容が重複している例は、上のようにウ型とエ型に圧倒的に多く見られるが、ア型、イ型にもわずかに見られる。13) はア型の例で、“因为”は“就”と呼応している。

13) 高中以后，回来以后哇，上了两年班儿。完了以后呀，就不上了。因为社会上那么复杂，再说挣钱挣那么少，得了，我说我就不去了。把工作一辞，就家待着了。『当代』299頁

高校の後、帰ってきてからは、二年ほど仕事に就きました。終わってからは、やめました。というのは、世の中は複雑だし、それに金は少ししかかせげないし、しょうがないやと、もう行かないって言ったんです。仕事を辞めて、家で待業となりました。

ここでは、「仕事をやめてしまった」ことが、先行句Aと結果句Cにおいて、繰り返されている。

14) はイ型である。

14) 下班呢, 那车就不好坐, 因为这单位车跟着公共汽车, 还有这个自行车, 什么车都在这个时间里边儿集中到路上来了, 所以这段时间车特别不好坐。『当代』273頁

退勤は、この車（職場の車）は乗りにくいですが、というのは、職場の車はバスのあとにくっついていて、それに自転車も、どんな車もみんなこの時間帯に路上に集中しますから、それでこの時間帯はとりわけ乗りにくいんです。

「退勤時に職場の車は乗りにくい」ことが、AとCで繰り返し述べられている。

以上のように、結果句Cは、先行句Aの内容の繰り返しであり、情報的には余剰である。したがって、文体意識が働き推敲、整理を経た『北京人』では削除の対象となつて、一件も見られないのであろう。一方の、『当代』に多く見られるのは、自然な談話にくりかえし現象がよく見られる⁵⁾ ことによつても説明できるであろう。

ウの型は、AからBへは先果後因であるが、BとCは、先因後果であり、結局、全体としては先因後果型でしめくくっていることになる。⁶⁾ すなわち、先因後果で終わらせるために、結果の内容の反復をしているとも理解できよう。Cで表される内容は古い情報であるにもかかわらず、Cが付け加わるのは、因果句の基本形式とされる先因後果型でしめくくるほうが、落ち着きが良いということであろうか。

このように、先因後果型に傾くもののある一方で、それでは、その逆の先果後因型の型は、どんな時にどんな理由で選択され使用されるのであろうか。以下にそれを考察する。

先果後因型の選択要因

先果後因の型は、主題に対する補足的な原因・理由説明であるとされる。

この型の選択使用に談話的要因がはたらいていることは、インタビューアが新たな話題を示し、解答者がそれに答えるような場合の例において、見てとることができる。

15) 身体情况, 我们家里边儿就我还稍微好点儿, 啊。因为我也在学校教体育吧, 也跟学生有时候儿一块儿活动活动。我爱人身体不特大好。……『当代』223頁

健康状況は、家族の中で私だけが少し良好です、ええ。なぜなら、私は学校で体育を教えますでしょう、生徒とときにはいっしょに運動しますから。妻

は体の具合があまりよくありません。

上の引用部分は、ひとつの話題についての発話を終えて、次の新たな話題「健康状況」について語り始めた箇所であり、引用部分は新しい段落の冒頭に置かれている。このように、複数の話題を与えられて順次それに答えていくという談話形態の場合、まず主題を提示し次に題述が続く、という主題—題述による談話展開の型が多く見られる。題述部分ではまずは骨子を答え、その具体的、詳細な説明をその後で追加する、というパターンを取り易いであろうことは容易に推測できる。こうしたことが、先果後因型の選択を誘発しやすい一つの原因ではないだろうか。

上の他に、補足説明が必要となる場合とは、どんな場合であろうか、いくつかの要因をみつけることができる。

まず、談話の流れの中では、聞き手は先行文脈を談話の枠として、後続文脈の内容を予測する。⁷⁾ 予測した内容に反するものが来たときには、特に説明が必要となるであろう。以下はそうした例である。

16) 听听咱们自己的对外播音，那播音员多半是国外请的专家，播的相当流利，标准；也听听B.B.C.，不听美国之音，因为它那美式英语和我不搭界；再说……『北京人』564頁

自分たちの海外放送を聴きました、アナウンサーは大半が国外から呼んだプロで、なかなかうまいし、標準語でした；B.B.C.も聴きました、ボイスオブアメリカは聴きません、アメリカ式英語は私には関係ないですから、それに……

上の例では、「听」が主要動詞になって連続して使われている。自分たちの放送を聴き、B.B.C.を聴き……と談話が進展していく過程では、次に予測されるのは、何か新たな別の放送を「聴く」ことではないだろうか。ところが、「聴かない」と否定形が突如現われる。これは談話の流れの中で聞き手の予測に逆らうので、説明が必要となり、後因型の因が現れる、ということではないだろうか。

例17)は隣接する前件と後件の内容に矛盾が見られる場合である。

17) 那时候，房闲，人也少，买房，租房，随你挑。现如今盖了这么多楼，房子还是不够住，就因为人多呗！『北京』63頁

あの頃は、部屋も空いてたし、人も少なかったから、買うのも借りるのも意のままに選べた。今ではこんなにたくさん家を建てているのに、まだ足りないなんて、人が多いからでしょう！

「たくさん家を建てている」とこと、「家が足りない」ことは内容的に矛盾

しているため、説明が必要となる。

逆接の接続詞や、逆接のムードを表す副詞が現われる場合も、聞き手になんらかの矛盾、対立を予測させるであろう。18) では副詞“倒是”が使われている。

18) ・ ・ 高考虽然班里大部分同学都考上大学了哈，我要考也不一定考不上。所以现在呢，嗯，倒是不后悔，因为我们家本来人口就少，考上大学不定上外地，上，上，上哪儿呢，家里没人照顾也不行。『当代』19頁

・・・受験は同級生の大部分が合格しました、私が受けたとしても、必ずしも受からなかったとは限りません。で今は、かえって後悔せずにいます、というのは、うちは家族が少ないので、大学に受かったらよその土地へ行ってたかもしれない、ど、ど、どこへ行ったとしても、家に世話する者がいないのはだめです。

「大学受験をしなかったのに、かえって後悔していない」ことは説明を要するため、補足説明がされているのであろう。

19) は、先行句の内容と対立するあるいは対比される内容の場合である。

19) 她们家呢，准备是，四十五桌，我们家准备是三十桌。因为亲戚有限，哈。『当代』123頁

彼女の家では、用意したのが45卓、私の家で用意したのは30卓です。親戚が限られていますから、はあ。

ここでは、新婦側の45卓に対して新郎側の30卓という不均衡な数字が出てきたため、説明を要するというのではないだろうか。

この他に、先行句で話し手の判断、評価、主張、説明などを表している場合に、先果後因型が多く見られる。

20) 我本来以为，选择考一门，拿一门的结业证书这种自学办法，对我比较合适，因为有些课程，好象在初中、高中和后来十几年的社会生活中，都翻来覆去地学了好多遍了，可以省点事。『北京人』419頁

ひとつの科目を選んで受験し、その学科の修了証書をもらうという独習の方法は、自分にあっていると、始めは思っていました。学科の中のあるものは、中学、高校、それからその後の十数年の社会生活の中で、何遍も繰り返し勉強したので、手間はがぶけると思ったんです。

この例では、「独習方法が自分にあっている」という判断の根拠を、先果後因によって説明している。

21) 说那个到了那儿哈，那车，那个毛纺厂吧还不错，因为它有五五八年建成，有多少年历史了啊，可以说。『当代』160頁

あそこのことを言えば、あの、あの紡績工場はすごいよ、5、58年に建設したんで、歴史があるからね、と言えるね。

「あの紡績工場はすごい」は話し手の評価を表しているが、その評価の根拠を補足説明している。

22) 电影呢，除了学校组织的，我是很少看的。因为没有时间去排队买票。『当代』31頁

映画は、学校で行くほかは、あまり見ないんです。並んで切符を買う時間ありませんから。

ここでは、先行句で“是・・的”構文を使っていることから、その内容である「映画をあまり見ない」ことが単なる事実としてではなく、話し手によって主観的に捉えられた命題として提示されている。

23) 不过现在呢都有电视，所以现在的注意力，主要集中在电视上。电视我基本上每天都看，吃饭的时候儿先看看新闻联播，因为从这个节目当中呢，可以了解一下国内外的重大事。『当代』30頁

でも、今はみんなテレビがあるので、注意力がテレビに集中しています。テレビは基本的に毎日見ますが、食事の時はまずニュースを見ます。ニュース番組の中で、国内外の重大なことがわかりますから。

この例は、上の諸例と違って、先行句の述語動詞や構文などに特徴があるわけではない。テレビ番組の中で「ニュース番組を見る」ことは単に番組選択という話し手の行為を表しているに過ぎない。しかし、その選択行為には話し手の主体的な判断が働いていることを、話し手が特に伝えたい時には、補足説明が続くということではないだろうか。

中国語の特性としてしばしば挙げられる事柄のひとつに、先に主要部を述べ、後から修飾部などを述べるという事柄の述べ立てかたの順序に関する傾向がある。これにかなった例をひとつ挙げておく。

24) 这都不是长久之计，我自己有一千钱多块钱，又集到一点资，承包了一间伙食店。偷偷干的，用另一个人的名字，因为我有正式工作。『北京』122頁

これは長いこと考えた計画じゃないんです、自分で千元あまり持っていて、その上に少し元手を集めて、飲食店を請け負いました。こっそりとしたんです、他の人の名前を借りて、私には正式の仕事がありましたから。

上に挙げた諸要因は、先果後因型に広く見られる傾向を示しているに過ぎなく、上の要因も単独ではなく、重なり合って用いられているものも多い。いずれにしても、先果後因型は、先行句によって形成される文脈に依存して選択される傾向が大きい、談話的な性質を備えた型であると言ってよいだろう。

まとめ

今回の調査では、自然な談話と推敲された談話の二種類の資料の間に見られる因果表現の使用状況の差異、および因果句の種類と文脈依存性を、とくに因果句が前後句との間にもさらに因果関係を結ぶという特有の文脈依存のかたちについて、考察した。調査の結果は以下のようにまとめられる。

- 1 自然な談話をそのまま文字転写した『当代』のほうが、推敲・整理された『北京人』よりも、因果句がはるかに多く使われている。
- 2 因果句の基本型とされる先因後果型と、後から補足的に原因・理由を加える先果後因型との使用頻度は、二種の資料のどちらでも大差ない。
- 3 因果句の多数は、因果句の内部で因果関係を完結しているが、中には、前後文脈との間にもう一つ別の因果関係を形成しているもの（二重因果句）がある。
- 4 二重因果句は、『当代』のほうが『北京人』よりもはるかに多数見られる。その中でも、先行句の内容を結果句において反復する形式は『当代』のみ見られて『北京人』には皆無である。
- 5 二重因果句の中で、先行句の内容を結果句において反復しているタイプは、その反復の結果、因果句全体が先因後果型となって落ち着いている。
- 6 先果後因型は、談話の流れの予測に反するような内容が現われたとき、或いは、話し手の判断、評価、意見などが提示されたときに選択されやすいという傾向が見られる。

因果句はその内部完結性が高いにもかかわらず、自然な談話の中で、より多数が使われている。これは、自然発生的な発話は文脈、状況などの要素への依存度が高いという一般的な言語原理に反するように見えるが、話し言葉ではその場での聞き手の理解を促すために必要な要素は明示されるという現象も、一方では確実に見られることを示しているのではないだろうか。

今回は、因果標識がその本義を保持している例のみをとりあげて、談話の中での見直しを試みた。談話内での因果標識は、“所以”に顕著に見られるよう

に、因果標識であることを超えて、談話推進のための標識として機能する一面があるようである。このような働きについては、因果だけでなく他の接続詞をも視野にいれて、後の機会に稿を改めて論じたい。

注

- 1) 分句は文中の節に相当する単位、句子は文に相当する単位であり、通常、分句と分句は逗号（カンマ）で区切られ、句子と句子は句号（マル）で区切られる。ただし、中国語では分句と句子の構造上の形態的な違いは明確ではない。なお、本稿では分句と句子の区別が問題にならない限りにおいて、両者を総称して句と称することがある。
- 2) 廖1986では、“原来”が置かれる形式も先果後因型としている。本稿の調査にも少数であるが、例が見られた。また、先果後因のタイプには、「・・、是因为・・」の形式もあるが、本稿の調査データにはほんのわずかしは見られなかったため考察対象からはずした。なお、情報構造の観点からのこの形式の専用論考として加納・近藤1988がある。
- 3) 大滝1992では、“所以”の単用形式は因果関係は表さず、語気を示すに過ぎないとしている。本稿の調査データでは、必ずしも語気とは言い切り難いが、因果関係の見出し難いものが多いことはたしかであり、むしろ談話を進めるための標識として機能しているようにも思える。
- 4) 王・張・卢・程1994, p. 141、高・王1996, p. 450
- 5) スタッブズ1983, p. 41
- 6) 譚1990は、このような二重の形態が、転折句と因果句のみに見られることを指摘している。また、譚のデータは論述文を中心に書き言葉から収録したものであるが、ここでは、原因・理由の部分が繰り返される“(因为)・・、所以・・、因为・・”の形式も同時に見られるとしているが、本稿のデータには見つからない。これは、二重因果句を帰結句で終わらせるか、原因句で終わらせるかの違いであるが、おそらくこれは、論述性の高いデータと、自然発生のとりとめのない発話との性格の違いに起因する差であろう。
- 7) スタッブズ1983, p. 106

主要参考文献

- 高更生・王红旗等 1996 <汉语教学语法研究> 语言出版社, pp.449-451
- 加納光・近藤健治 1988 中国語の主従複文の構造、「ことばの科学」1号、名古屋大学総合言語センター
- 廖秋忠 1986 现代汉语篇章中的连接成分, <中国语文> 第6期, pp.413-427
—— 1989 篇章中的管界问题, <中国语文> 第4期, pp.250-261
- 林裕文 1984 <偏正复句> 上海教育出版社
- 刘月华・潘文娉・故骅 1983 <实用现代汉语语法> 外语教学与研究出版社
- 罗日新 1995 关联词语纵横谈, <语言研究> 第1期, pp.28-32
- 吕叔湘 1982 <中国语法要略> 商务印书馆, pp.386-406
- 大滝幸子 1992 中国語複句文の接続関係を決定づける諸要因—順接・逆接の分析を通して見いだせること—、「文化言語学—その提言と建設」、三省堂、pp. 958-976
- スタッブズ, マイケル(Michael Stubbs) 1983 *Discourse Analysis The Sociolinguistics Analysis of Natural Language*, Basil Blackwell Ltd. (邦訳: 南出康世・内田聖二共訳「談話分析—自然言語の社会言語学的分析」、研究社、1989)
- 谭达人 1990 含双联分句的复句, <中国语文> 第6期, pp.422-426
- 庄文中 1990 <句群>, 人民教育出版社
- 王维贤・张学成・卢曼云・程怀友 1994 <现代汉语复句新解>, 华东师范大学出版社, pp.122-143